

「法学検定試験 スタンドアード〈中級〉コース excellent 合格までの学習」

私は3年次に受験した2025年度法学検定試験において、スタンダード〈中級〉コースにexcellent合格しました。そのための学習について報告したいと思います。

1. 受験した理由

理由は大きく分けて2つあります。1つ目は就職活動のためです。私は1年次から法律科目を積極的に履修し、現在会社法を専攻しています。今までの学習で培った法的知識を主張するために、客観的な評価が必要だと感じ受験しました。

2つ目は2年次に受験したベーシック〈基礎〉コースの結果が不甲斐ないものだったからです。2年次の必修の講義で法学検定試験の紹介があったこともあり、周りに基礎コースを受験する人が多く、半ば流されるように受験を決めました。学習方法や勉強時間の確保などに問題があり、excellent合格の友人もいるなか、合格点を少し上回る程度の点数しか取ることができませんでした。この反省と悔しさから、中級コースでexcellent合格の評価を得ることを目指しました。

2. 学習において力を入れた分野

中級コースの出題と配点は、「法学一般」10点、「憲法」15点、「民法」20点、「刑法」15点、「選択科目」15点の計75点満点となっています（2025年度試験時点）。選択科目は会社法を専攻していることもあり、「商法」を選択しました。

中級コースに向けて学習する上で、今まで授業で履修していない分野を特に力をいれました。具体的には民法の家族法等ですが、民法は配点が多い一方で範囲も広いため、勉強時間を割くことで他の分野が疎かにならないように気を付けました。日頃の会社法や民法の講義では、法学検定の問題と関連付けて学習するようにしていました。

3. 学習時に活用した参考書・問題集

法学検定試験の公式問題集で学習しました。基礎コース、中級コースは6~7割が公式問題集から出題されると言われています。問題集と全く同じ問題が出題される訳ではありませんが、公式問題集を中心に学習することが有効な学習方法だと思います。問題を解く、分からない問題は解説を読む、疑問点があればその分野の教科書を読む、といった学習を行っていました。

4. 勉強する上で意識したこと

問題集を繰り返し解くことです。中級コースの問題集は分厚く一見すると周回することが難しいように思えますが、選択科目が複数収録されているため、実際に解く必要がある部分は想像するよりも少ないです。私はすべての科目を一度に解くのが負担に感じたため、科目ごとにそれぞれ繰り返し解いていました。苦手な科目は多く周回し、得意な科目は少なく周回することで時間を有効活用できたと思います。解答を暗記してしまうぐらい周回するということが重要だと思いました。

5. 成果・試験を受けて

2025年度の中級コースの試験では75点中41点以上で合格、59点以上でexcellent合格とされ、私は64点を獲得しexcellent合格の認定を受けることができました。今まで授業で履修していなかった分野がある民法や刑法で誤答が目立ちましたが、目標を達成することができました。3年次の9月末から問題集を解き始め、今までの学習の蓄積にある程度は頼りながらも、サークル活動の合間を縫って問題集を繰り返し解いた努力が実ったと思います。

前述の通り公式問題集から6~7割出題されるとありましたが、解いた感覚では5割程度のように感じました。基礎コースを受験した際には7割ほどが問題集から出題されている感覚がありましたが、中級コースでは基礎コースとは違いレベルが上がっていることを実感しました。

6. 反省・課題

ある程度の点数を取るという観点においては問題集の周回が重要だと思いますが、応用問題を解くためには時間をかけて別の教材で学習する必要もあります。未履修の分野に対する学習が不十分であったために、思うように点数が伸びなかったことが反省点です。

今回の試験では高得点を取ることに重点を置いてしまっていたため、結果とは裏腹に深い理解が及んでいない部分が多くあります。今後も法学を主体的に学び、自信をもって「大学で法学を学んだ」と言えるようにしたいと思います。

法文学部 人文社会学科 法学・政策学履修コース

3回生 免出 侑浩

